

F—36 女子青年層の勤労観の一調査 その二 —大学生の場合、総括—
和洋女大 ○酒井ノブ子 金蘭短大 篠原冬

目的 「そのノ」に引き続き女子大学生の勤労観についで、さらに女子青年層の全体についてこれを明らかにしたい。

方法 調査時期は50年9月～51年4月で、対象者は和洋女大生143人、同短大生188人（千葉県市川市）金蘭短大生312人（大阪府吹田市）計643人で、集団面接して質問紙を配布し、回収した。その他は「そのノ」参照。

結果 NHKの全国調査と比較してみると、数項目を除いて有意差がみられ、一般勤労者の場合と同じく、女子青年層の勤労観には特質のあることを感ずる。また同じ構内にいる短大2年生188人と女大3～4年生143人と比較してみると、平数に近い項目に有意差がみられた。また地域の異なる短大生、和洋188人と金蘭312人と比較してみると、それ以上の項目に有意差がみられた。これらは年令、地域、学厂によつて勤労観に違いが生ずることを物語っていると推測され、「そのノ」と矛盾しないことが明らかになった。

また総括では、今回の調査898人とNHKの全国調査2618人と比較してみると、余暇意識の一部を除いては有意差があり、総体的に女子青年層の勤労観には特質があることが、ある程度明らかになった。また併せて勤労観は年令、職種、地域、学厂などにも影響されるものであることもある程度知ることができた。